



MobyFlyは、Sue PutallazとAnders Bringdallによって設立され、後にRicardo Bencatel、Anthony Girardin、Thomas Putallazが加わりました。使命は、最高技術をもって、ゼロエミッションの大量輸送用水中翼船を設計、開発、製造することです。MobyFlyチームは、水上での高速航行記録をいくつも達成するなど実績を上げており、目的達成能力があると自負しています。21世紀における大量輸送の最前線に立ち、将来の水上輸送を変えるべく、高速で効率的なゼロエミッションの水中翼船を設計しており、ハードウェアとソフトウェアの定期的なアップデートにより、時間とともに常に進化を続ける費用対効果の高い、持続可能な輸送システムを事業者に提供します。そのため、常に最先端であり、(バッテリーや水素技術の向上とともに)当社の水中翼船はさらに優れたものへと進化を遂げていきます。そして何より、MobyFlyの水中翼船は、完全なエミッションフリーを実現します。

社会が抱える問題とその解決策

国際海事機関(IMO)の国際合意(2018年調印)は、2050年までに船舶の温室効果ガス(GHG)総排出量を少なくとも50%削減することを掲げています(2008年を基準とした場合)。しかし、EUはこの目標では不十分であると考え、同期日までに、すべての輸送による排出量を少なくとも90%削減するというかなり高い志を掲げています。

MobyFlyは、川や湖、沿岸水路などの既存の自然インフラを活用することで、世界中の都市に、実行可能で実用的、かつ柔軟なゼロエミッションの大量輸送ソリューションを提供します。水路は、建設や費用の負担を必要としない豊かな自然のインフラであり、その保護と維持のみ必要になります。

当社の水中翼船は、気候変動の時代に効率的でゼロ・エミッションの大量輸送を実現する、現実的で実用的な手段なのです。

自社・製品の強み

- 実績があり、信頼性の高いフライトコントロールシステムを搭載したMobyFlyのソフトウェア
- MobyFlyは時速70km以上のスピードで、最大300人の乗客を快適に水上輸送することができる高速水中翼船です。ボートは非常に効率的で、現在のディーゼルフエリーに比べて最大70%少ないエネルギーで航行することができます。
- MobyFlyは、水中翼船で実績をもち、Americas' Cup(国際ヨットレース)からボート業界まで実力を発揮できる経験豊富なチームがいます。

ビジネスモデル

自動車のOEMに似ています。MobyFlyは、船の設計や、水中翼制御システム、格納式水中翼推進ユニット、バッテリー交換インターフェースなどのコアサブシステムの開発および統合、バッテリーやパワートレインなどのその他のサブシステムの専門パートナーメーカーからの調達、船体の製造および組み立ての外注と監督、ボートのサブシステムの組み立て外注、調整および検証試験、お客様へのボートの販売、船のライフサイクル(アップグレードを含む)を通してお客様への緊密な技術サポートサービスの提供を行っています。可能な限り、納品先の国の造船所に、船体の製造と組み立てのライセンスを供与しています。

MobyFlyの収益源は主に以下の通りです。

- ボートの販売、部品およびシステムの販売(バッテリー交換システムを含む)、クラウドおよびソフトウェアへのこだわり
- メンテナンスとアップグレード、活動の脱炭素化ができない産業によって支払われる炭素クレジット
- 電力網の需給調整サービス(バッテリー交換プラットフォームによる)

Hack Osakaの参加目的

- 10mの試作水中翼船の商品化、および既に契約済みである18mの水中翼船納入のために、ラウンドAを開始しました。
- 当社製品の開発と、当社スケールアップに向け、日本現地でパートナーを見つけたいと考えています。日本はデザイン、製造、インベーションの世界的リーダーであり、このクエストに参加していただける現地のパートナーと出会えることを楽しみにしています。

設立年	2020
ウェブサイト	https://mobyfly.com/
所在地	コロンジュ(スイス)
資金調達	140万米ドル (約1億6,000万円)
世界市場での実績	フランス、スイス、ポルトガル
日本語対応	×(Hack Osaka 2022商談会では逐次通訳対応)